HAPPY MEDIA 名取・岩沼・亘理・柴田・大河原 地域みっちゃく生活情報誌®

東証一部・名証一部［証券コード:2139］

なうてい!

3

2020. MAR VOL.53

総発行部数 58,830部
無料各戸配布 57,372部
無料設置 1,458部

フリモAR をかざすと、ひな祭りの様子が見られます

スマホで表紙をスキャン!

フリモARは表紙右下でダウンロード!

巻頭特集 佐藤屋プロジェクト

地域の歴史を後世に

みんなの放課後活動 みん活
スポーツウエルネス吹矢 名取愛島支部

地元工務店&ハウスメーカーのイイトコ魅せます
春グルメ
新生活をはじめる
学びはじめる
働きはじめる
磨きはじめる

すぐダウンロード!!

スマートフォンのApp Store®、
またはGoogle Playで「フリモAR」と検索!

表紙がもっと楽しくなる!! フリモAR

巻頭特集

佐藤屋プロジェクト

地域の歴史を後世に

仙南随一の素封家として知られ、国登録の有形文化財でもある佐藤屋邸。日本の古き良き時代をその姿に残す大邸宅だ。佐藤屋プロジェクトは、地域のボランティアらで構成される組織で、同屋敷を活用し、大河原町の文化や魅力を発信。後世に歴史を伝えようと活動している。2月末のひな祭り、その後に開催されるさくら祭りでも一般開放され、多くの人が足を運び、現代へと伝わる風情に触れる場となっている。

地域が誇る文化財

山形県米沢の農家に生まれた権右衛門が大河原の豪商に奉公に入った。これが佐藤屋の歴史の始まり。その後、独立すると商売の才覚を発揮し、呉服や醸造業などを展開してまたたく間に財を成した。味噌醤油の販売は、昭和初期には関東まで広がったという。地主でもあり、かなりの小作人を抱えていた。

佐藤邸は明治から昭和にかけて建築されたもので、襖絵や建具などに当時の職人の技術が垣間見える。特に邸宅の設計は、瑞宝殿の再建に関わった建築家・小倉強氏によるものである。大河原町の文化財保護委員長を務め、プロジェクトにも参加する及川義行さんは「丁寧な仕事や吟味された材料、空間表現など贅を尽くしているのが分かる」と話す。日本庭園のような趣があり、前庭、中庭もある。どこからでも庭が見える作りになっているところにもこだわりを感じる。

町に活気を

平成の初めに醸造業を廃業したため、同邸は無人の状態が続いていた。佐藤家の9代目当主が「町民の人たちが使えるようにしてほしい」と要望したのをきっかけとして、ボランティアサークルである佐藤屋プロジェクトは平成23年に立ち上がった。

同プロジェクトは、町の発展や文化の継承を目的として、風格のある屋敷を生かしたイベントを開催している。これまで地域外のイベントに赴いて研修を行い、定期的な会議も開いて活動の内容を煮詰めてきた。佐藤屋で2月下旬から開かれるひなまつりは、平成27年に初開催して今年で7回目。きっかけになったのは、町内に昔のひな人形が多数あったことだった。特に関西圏で多

幹事 村上良雄さん

会長 渡辺常男さん

幹事 及川義行さん

幹事 大友廣一さん

時代によって変わる雛飾りの魅力を、屋敷の雰囲気が引き立てている
（過去に開催されたひなまつりの様子）

く見られていた御殿雛という珍しいひな人形もあり、それらを借りて一堂に展示することにした。

ひな人形と一口に言ってもその歴史はとても古く、年代によって形式も変わってくる。現在のひな人形の始祖といえるのは、江戸初期の寛永雛で、それまでは紙で平面的だったものが立体の人形となった。現代のものと比べると、小柄なうえに装飾も質素で、髪や冠も墨で塗られるのみだった。その後、江戸中期に登場した享保雛は大型になり、衣装にも綿や刺しゅうを入れた手の込んだ作りになっていく。江戸末期あたりに登場する古今雛は、現在の段飾りにつながる部分が多く、職人技の光る豪華で写実的な造形となっている。

一方、御殿雛は京都御所で行われる春の宴を模しており、豪華な屋敷の作りなどが特徴。現在の段飾りとはまたちがう空間表現が魅力となっている。

佐藤屋でのひなまつりは、それぞれの時代の雛飾りが並ぶため、長い歴史の変遷を楽しめる。それをさらに魅力的にしているのは、やはり屋敷のすばらしさだ。和の雰囲気に包まれるひと時は、現代ではなかなか味わえない。まつりの3日間で来場者は約千人を数える。来場者の中には、その独特な空気に思わず息を呑む人もいるほどだ。

それもそのはず、準備は段の設置だけで2日間をかけ、それ以前の準備にも数カ月を掛ける。同プロジェクトが作り上げるおもてなしの精神にあふれているのだ。雛飾りのほかに吊るし飾りやシャドーボックスの展示、折り紙のクラフトコーナー、物産販売があり、ワークショップも開催されるなど、内容は盛りだくさんだ。

また、同プロジェクトは、4月のさくらまつりでも休み処として佐藤屋を開放している。大河原町の誇る一目千本桜を楽しんだ後、くつろげる場所として茶席や弁当の提供を行っており、琴やピアノ、フルート、バンドなどの演奏も楽しめる。弁当は蔵王のイタリア料理店が出張で担当するなど、さまざまな文化が混在するのも魅力だ。

昨年10月は奥州街道の様子を紹介するパネル企画展を実施した。武士のいない農民の町だった江戸時代の大河原。そこに街道ができ、宿や食事処の誕生とともに問屋が力を持ち、やがて商人の数を増やしていく。そんな町の歴史や変遷をひも解く展示は、多くの人でにぎわった。

佐藤屋は大河原町中央公民館の隣に位置する

文化を後世に

同プロジェクトで会長を務める渡辺常男さんは「大河原町の人たちに歴史や文化を知ってもらい、後世に伝えていくのが重要な使命」と強い思いをにじませる。そのうえで「小中学校の子どもたちに向けた取り組みも展開し、町の良さや愛着の醸成につなげられたら」と話す。町の歴史を上映するための映像メディアや、ホームページなども完成しており、今後はそれらをいかに活用していくかが課題だという。

地域の伝統を守りながら、それを後世に伝えていく佐藤屋プロジェクトの取り組みは、これからも続く。まずはひなまつりに足を運んでみよう。大河原町の持つ隠れた魅力がそこにあるはずだ。

文化財とひな人形が織りなす和の世界

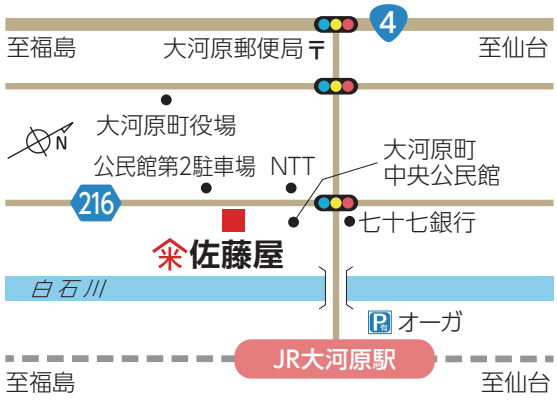
第七回 おおがわら佐藤屋でひなまつり

日　時　2月28(金)～3月1日(日)
10:00～16:00(最終日15:00まで)

会　場　国登録有形文化財 佐藤屋
大河原町字町200(大河原町中央公民館隣)

内　容　ひな人形展示・田畑登茂子作品展・
カフェコーナー・茶席
ワークショップ(参加者募集)

問合せ　080-3658-9629(渡辺)
https://www.satouya-project.com/



※車で来場する場合
大河原駅前ビルオーガ駐車場(2時間まで無料・2時間以上有料／会場まで徒歩10分)、または中央公民館第2駐車場が利用できる。

高速道路(東北自動車道)
●村田I.Cから大河原方面へ車で約20分。
●白石I.Cから仙台方面へ車で約20分。

JR東北本線
●JR大河原駅西口から徒歩約10分。